

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	岡崎市立城北中学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	どうする城北～岡崎の地域素材を生かした教育活動～

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1 活動に至る経緯

本校は、昭和36年に創立した歴史と伝統を重んじる学校である。開校当時から引き継がれる数々の伝統行事もあり、親子3代にわたって城北中学校の卒業生ということも珍しくない。この3年間は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な教育活動が中止や縮小となった。本年度は、感染症法上の位置づけが引き下げられたことを受け、コロナ禍前の教育活動を新たな形で復活させたい。NHK大河ドラマ「どうする家康」で全国から注目される岡崎市の教育的資産を生かしながら地域に開かれた学校づくりをめざしたい。

#### 2 活動のねらい

- ・授業（理科、技術家庭科、総合的な学習、特別活動）において、地域の有する教育的資産を生かすことで、地域を愛し地域を誇りに思う生徒を育成する。
- ・日々の教育活動、学校行事を積極的に保護者・地域に発信し、生徒の生き生きした姿を見せることで絆を深め、学校教育活動に対する理解を図りたい。

#### 3 活動内容

### ①地域の「ひと・もの・こと」を生かした理科・技術家庭科・総合的な学習の推進・特別活動の実践

#### 【1年生の実践】

##### ・「岡崎の昆虫博士から学ぶチョウの不思議」〈6月〉

理科の節足動物の学習において、岡崎市内在住の昆虫博士（杉坂美典氏）を招き、愛知県に生息するチョウを題材に昆虫のからだのつくり、チョウの生態から見えてくる環境の変化を学習した。



##### ・岡崎の漆を生かしたラジオ作り 〈7月～3月〉

三河地方は、かつて良質な漆の栽培地でもあったことから、岡崎漆としてのブランド化を目指す岡崎漆プロジェクトの方から技法を学び、技術家庭科で漆ボディーのラジオを製作した。



##### ・伊賀川クリーン大作戦 〈6月〉

岡崎城のほとりを流れる伊賀川は岡崎市民にとって憩いの場である。学区の「伊賀川をきれいにする会」と協力しながら学年全体で地域のボランティア活動に参加する予定であったが、大雨のため川が増水したため中止した。

#### 【2年生の実践】

##### ・「専門家に学ぶ実生活における電磁気の利用」〈12月〉

中部電力から講師を招き、身近な生活で電気がどのように作られ、使われているか専門家から学んだ。生徒は発電の仕組みを実験を通して体感的に学んだ。



#### 【3年生の実践】

##### ・「持続可能な未来のエネルギーを考える」〈7月〉

理科の「自然環境と人間」の単元において地球の環境問題と持続可能なエネルギーの学習を進めるに当たり、中部電力から講師を招き、実際に企業がどのような対策をしているか知ることで学習を深めた。



## 【全校の実践】

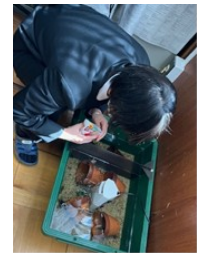
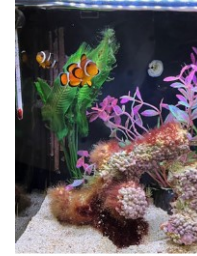
### ・「城北科学の日」〈2月〉

岡崎市には、世界最先端の科学研究を進める自然科学研究機構がある。毎年、機構から最先端の研究に携わる科学者を講師として招き、研究の内容や科学者としての生き方を学んでいる。本年度は、昆虫の研究を専門とする新見輝幸博士を招聘し、全校生徒が講演を聴いた。



### ・「生き物ランド」〈通年〉

地域の自然に触れる機会をつくるために、植物栽培、生き物飼育をする。本年度は、岡崎市のブランド野菜でもある法性寺ネギ保存会の方を講師として招聘し、特別支援学級で植え付けを行った。また、魚類（メダカ、カクレクマノミ、チンアナゴ）、両生類（イモリ）、は虫類（カメ）を校内フリースクール（F組）の生徒が中心となり、毎日世話をしている。生き物の飼育をすることがきっかけで登校日数も増え、命の尊さと動物愛護の優しい心を育むことができた。



## ②道徳を中心とした豊かな心の醸成

### ・「無人購買」の設置〈通年〉

校内にノートやペンなどの文具の無人購買を設置している。生徒が自由に必要なものを持って行き、お金をボックスに入れていくものである。「生徒を信じる」ことから始めた本校の伝統の一つである。



### ・生き方講演会「家康の生き方に学ぶ」〈5月〉

岡崎で生まれた徳川家康の研究家・浅井久仁臣氏を講師として招き、家康の生き方を学んだ。

### ・道徳研究〈通年〉

京都産業大学から柴原弘志先生を講師として招き、研究授業参観の後、現職研修会を実施した。

## ③城北中伝統行事の完全復活

### ・暁天かけ足〈12月〉

夜明け前に全校生徒が学校に集まり、ファイヤーを囲みジャンカを踊る。その後、学区をかけ声をかけながら走り、夜明けのゴールを目指す。PTA、学区、消防、警察の協力を得て行う本校の最大の伝統行事である。本年度は、4年ぶりに「ヨイショ」のかけ声をかけながらの暁天かけ足を復活させた。活動の様子はテレビ、新聞でも大きく報道された。



### ・ネズミグループ（ボランティア清掃）〈通年〉

クラスごとに土日の早朝に学区の清掃活動を行った。8月の岡崎花火大会の翌朝には、全校生徒で岡崎城公園の清掃活動を行った。良いことをねずみ算式に増やしていこうとすることが由来の本校の伝統的な活動である。



## 4 成果と今後の課題

- (1) 地域の「ひと・もの・こと」を生かした教育を実践することで、地域への愛着が高まった。
- (2) 全職員で「岡崎の地域素材を生かした教育活動」に取り組むことで、教員の新たな教材開発に対する意欲が向上した。
- (3) 来年度、さらに多くの生き物を飼育・栽培することで「生命の教育」を推進したい。